

名前 () 日づけ (/) できた数 (/28)

使い方 まず本文を声に出して一度読み、そのあと傍線の番号を手がかりに解きます。この話の山は「む」「じ」の識別、「や～む」の係り結び、そして老婆の言い分です。答え合わせのあと、最後の現代語訳でもう一度通して読むと定着します。

あらすじ＝盗みのために都へ上ってきた男が、日暮れを待って羅城門の下に隠れる。人目を避けて門の二階へそっとよじ登ると、若い女の死体のそばで、年老いた女が死人の髪を抜いていた。鬼かと恐れながらも刀を抜いて詰め寄ると、老婆は「亡くなった主人の世話をする人がいない。長い髪を抜いてかつらにするのだ」と命乞いをする。盗人は死人の衣も老婆の衣も髪も奪い取って逃げ去った。芥川龍之介『羅生門』のもとになった話である。

一次の文章を読んで、後の問いに答えよ。

今は昔、摂津（せつづ）の国のあたりより、盗みせむがために京に上りける男の、日のいまだ暮れざりければ、羅城門（らじやうもん）の下に立ち隠れて立てりけるに、朱雀（すざく）のかたに人しげく行きければ、人の静まるまでと思ひて、門の下に待ち立てりけるに、山城（やましろ）のかたより人どものあまた来（く）る音のしければ、それに見えじと思ひて、門の上層にやはらかきつきて登りたりけるに、見れば、火ほのかにともしたり。

盗人、あやしと思ひて、連子（れんじ）よりのぞきければ、若き女の死にて臥（ふ）したるあり。その枕上（まくらがみ）に火をともして、年いみじく老いたる嫗の白髪（しらが）白きが、その死人の枕上に居（ゐ）て、死人の髪をかなぐり抜き取るなりけり。

盗人、これを見るに、心も得ねば、「これはもし鬼にやあらむ」と思ひて恐ろしけれども、「もし死人にてもぞある、して試みむ」と思ひて、やはら戸を開けて、刀を抜きて、「おのれは、おのれは」と言ひて走り寄りければ、嫗、手まどひをして、手をすりてまどへば、盗人、「こはなにぞの嫗の、かくはしぞ」と問ひければ、嫗、「おのれが主にておはしましつる人の失（う）せ給へるを、あつかふ人のなければ、かくて置き奉りたるなり。その御髪（みぐし）の、丈（たけ）に余りて長ければ、それを抜き取りて髪にせむとて抜くなり。助け給へ」と言ひければ、盗人、死人の着たる衣と、嫗の着たる衣と、抜き取りてある髪とを奪ひ取りて、下り走りて逃げて去りにけり。

語注 摂津の国＝今の大阪府北部から兵庫県南東部のあたり。羅城門＝平安京の南の正門。当時は荒れ果てていた。朱雀＝朱雀大路。羅城門から北へまっすぐのびる都の大通り。山城の国＝今の京都府南部。上層＝門の二階部分。連子＝連子窓。細い格子を間をあけて並べた窓。枕上＝まくらもと。かなぐり抜き取る＝手荒くつかんで引き抜く。もぞ＝「くすると困る」という危惧（きぐ）を表す言い方。「ぞ」の結びで文末が連体形「ある」になっている。手まどひ＝あわてふためくこと・うるたえること。こはなにぞの嫗の、かくはしぞ＝これはいっただいという者が、こんなことをしているのか。主＝主人。仕えていた相手。御髪＝「みぐし」と読む。お髪（かみ）。丈＝背丈。おのれ＝①自分・私 ②おまえ（相手ののしる言い方）。

A 語句の意味と読み (1～7)

- (1) ②「静まる」とは、ここではどういうことか。
- (2) ③「それに見えじ」の「見え(見ゆ)」の意味を書け。
- (3) ④「やはらかきつきて」の「やはら」の意味を書け。
- (4) ⑥「あやし」のここでの意味を書け。
- (5) ⑦「老いたる嫗」の「嫗」の読みと意味を書け。
- (6) ⑧「心も得ねば」の「心得(う)」の意味を書け。
- (7) ⑭「鬘にせむとて」の「鬘」の読みと意味を書け。

B 文法(助動詞・係り結び・敬語の種類) (8～13)

- (8) ①「盗みせむがために」の「む」の文法的意思を書け。
- (9) ③「それに見えじ」の「じ」の文法的意思と、「じ」が接続する活用形を書け。
- (10) ⑧「心も得ねば」の「ね」の文法的意思・活用形と、「ば」の意味を書け。
- (11) ⑨「これはもし鬼にやあらむ」の係助詞「や」の結びの語と、その活用形を書け。
- (12) ⑩「脅して試みむ」の「む」の文法的意思を書け。
- (13) ⑫「おのれが主にておはしましつる人の失せ給へる」の「おはしまし」と「給へ」は、それぞれ何敬語か。

C 指す内容と敬意の方向 (14～17)

(14) ③ 「それに見えじ」の「それ」は何を指すか。

(15) ⑫ 「おのれが主にておはしましつる人の失せ給へる」の「おのれ」は誰を指すか。

(16) ⑬ 「あつかふ人のなければ、かくて置き奉りたるなり」の「奉り」は何敬語で、誰に対する敬意か。

(17) ⑮ 「助け給へ」の「給へ」は何敬語で、誰から誰への敬意か。

D 口語訳 (18～21)

(18) ⑤ 「火ほのかにともしたり」を現代語訳せよ。

(19) ⑨ 「これはもし鬼にやあらむ」を現代語訳せよ。

(20) ⑪ 「手をすりてまどへば」を現代語訳せよ。

(21) ⑬ 「あつかふ人のなければ、かくて置き奉りたるなり」を現代語訳せよ。

E 内容・記述 (22～25)

(22) ④ 「やはらかきつきて」とあるが、盗人が門の上層に登ったのはなぜか。本文に即して四十字以内で書け。

(23) ⑩ 「脅して試みむ」とあるが、盗人は何を確かめようとしたのか。四十字以内で書け。

(24) ⑭ 「鬘にせむとて」とあるが、老婆は死人の髪を抜く行為をどのように説明して正当化したか。六十字以内で書け。

(25) ⑮ 「助け給へ」と老婆が命乞いをしたあと、盗人はどうしたか。⑨のときの気持ちと比べて心情がどう変わったかにも触れて、八十字以内で書け。

F 文学史 (26～28)

(26) この話の出典『今昔物語集』について、成立した時代と作品の種類（ジャンル）、および各話に共通する書き出しの言葉を書け。

(27) 『今昔物語集』は三部から成る。「天竺」「震旦」「本朝」は、それぞれ今のどこを指すか。

(28) この『羅城門』の話をもとにして書かれた近代小説の作品名と作者名を書け。

【テスト直前チェック】この三つ ①「む」の使い分けが最大の山 ①「盗みせむがために」は目的を表す言い方の中の「む」（婉曲、または意志）、⑩「脅して試みむ」は心内文の文末にある盗人の意志。同じ「む」でも、置かれた場所で用法が変わります。②係り結びは「や」+連体形 ⑨「これはもし鬼にやあらむ」は、疑問の係助詞「や」を受けて文末が連体形「む」で結ばれています。訳は「～ではないだろうか」。「じ」(③)は打消意志で未然形接続、という接続もセットで覚えましょう。③敬語は「誰が誰を高めるか」で決める ⑬「奉り」は謙譲で亡き主人へ、⑮「助け給へ」は尊敬で目の前の盗人へ。どちらも敬意を出しているのは老婆です。会話文の中の敬語は話し手からの敬意、と覚えておくと迷いません。